国　語	第４学年	指導者　　中野　真澄

単元名

「伝統工芸のよさを伝えよう」
～世界にほこる和紙～

本単元で育成する資質・能力

課題発見力〈情報を活用し課題をつかむ力〉
思考力・判断力〈筋道を立てて考え自分で決める力〉

1　単元について

単元のねらい

○　本単元は，「学習指導要領解説国語編」第３学年及び第４学年〔思考力，判断力，表現力〕「B書くこと」の「ウ　自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること」を受け，伝統工芸について調べて整理した情報を基に，写真や文章を用いて，分かりやすく書くことをねらいとしている。また，「C読むこと」の「ウ　目的を意識して，中心となる語や文を見つけて要約すること」を受け，文章を読んで内容と構成を捉え，まとまりごとに中心となる語や文を要約することをねらいとしている。

本教材では，中心となる語や文を捉えて要約するという，説明文の学習で身につけた力を活かし，伝統工芸に関して本などで調べたことをまとめてリーフレットを作る学習を行う。リーフレット作りを単元のゴールにすることで，説明文をどのように読み，そこで得た力をどういかすか，百科事典や本などから情報をどのように得て，整理し，自分の書くものに用いていくかなど，目的をもって学習に取り組むことをねらいとしている。

児童について

○　本学級の児童は，４年生「アップとルーズで伝える」の学習を通して，事実と考えを読み分け，段落相互の関係や役割を読み取る学習を行っている。これらの学習を通して，児童は，中心となる語や文を捉え，段落相互の関係を考えながら読み取れるようになってきた。

書く活動としては，教材の叙述を引用して，自分の経験したことや意見を書くことはできている。しかし，読み手によりよく伝えるために文章表現の適切さを検討したり，写真や絵の取捨選択をしたりするまでには至っておらず，相手意識を持って書こうとする児童は少ない。

そこで，自分の意見を伝える場や友だちの意見を聞く場を増やし，考えを共有している安心感や自信につなげる工夫をしてきた。そうすることで，友だちの意見と自分の考えを比較して説明したり，その相違点について話し合ったりすることができてきた。また，正確な読み取りをするために接続語・文末表現・繰り返し語句などの表現の工夫にも目を向けて読み取ることも少しずつできるようになってきた。

指導の手立て

視点１①　他教科，総合的な学習の時間等との関連付け

○社会科の学習との関連を図り，自分たちの住む都道府県の伝統工芸を紹介するリーフレットを作ることを単元のゴールに設定し，情報を取捨選択し，文章を書いていく。そして，６年生にリーフレットを発表することで，相手意識を高める。

視点１②　単元を貫く言語活動の設定

○説明のしかたを捉えながら，取り上げる題材に関連する本を読み，文章を要約してリーフレットを書くようにする。

視点２①　発問の工夫

○「筆者の考えの理由となることを２つあげています。それぞれの理由が説明されている段落を考えて，中を２つに分けましょう」を考えさせ，分けた段落の言葉に着目させ，段落同士のつながりを考えさせる。

視点２②　思考過程の見えるノート指導

○「初め」「中」「終わり」のまとまりごとに中心となる語や文を整理し，ノートにまとめ，文章全体の要約に生かす。

2　本時の目標

筆者が和紙の使い方や歴史についての事例を入れる工夫を読み取ることができる。

3　本時の評価規準

筆者が和紙の使い方や歴史についての事例を入れる工夫を文章から読み取ろうとしている。

4　準備物

掲示物

5　学習の展開

過程	学習活動	主な発問（〇）と予想される児童の反応（・）	指導上の留意点（〇）と評価規準（※）及び評価方法（　）
課題の設定	1　前時の復習 「中」を大きく２つに分けたことを確認する。 2　学習課題の設定	〇筆者は考えの理由として，どんなことをあげていましたか。 ・①和紙の破れにくさや長持ちするという特徴。 ・②後半は，受け取る相手や伝えたい気持ちに合わせて選ばれること。 〇「中」は大きく２つに分けたけど，何段落と何段落を分けたかな。 ・３段落から６段落 ・７段落から９段落 筆者の書き方の工夫を考えよう。	〇「中」を分けたとき，３段落から６段落を前半，７段落から９段落を後半ということを確認する。
情報の収集	3　段落ごとに書かれているそれぞれの事例を読み取り，感想を交流する。	〇中にはどんな事例が挙げられているかな。 【前半】 ・和紙が破れにくく長持ちする理由について書いてある。 ・正倉院に保管されている文章のことが書かれている。 ・約 1300 年前の和紙に書かれたものが，手触りも当時と変わらなく，文字も当時と同じように読める。 ・日本だけでなく，世界の博物館や美術館などで和紙が古いものの修復に使われている。 【後半】 ・筆者がどんなときに和紙を使っているのか書かれている。 ・外国では，人の手による和紙作りが減っているが日本には今もたくさんある。 	〇それぞれの事例について読み取り，何を説明するためにどんな例をあげているのか気付かせる。

整理・分析	4　事例を入れている理由について考える。	○なぜこれらの事例を書いているのか考えよう。 〈補助発問〉 ○事例を入れるのと入れないのでは，どちらがよい？ ・和紙の良さである長持ちすることをよりわかりやすくするために，正倉院に保管されている文書の例を書いている。 ・約 1300 年前の和紙に書かれたものが当時と同じ手触りや同じように読めることを書くことで，ずっと前から作られてきた伝統だということがわかる。 ・事例を書くことで，世界でも活躍する和紙のすごさがよくわかる。 ○筆者は「和紙の良さをより多くの人に知ってもらい，使ってほしい」と言っていますが，みなさんはこれを読んで「和紙を使ってみよう」と思いましたか。 ・使ってみたいと思った。なぜなら，昔から使われている日本の伝統だと分かったからです。	○事例があるとないではどちらのほうが和紙についてよりわかるかを気付かせることで，事例を入れる理由について考えさせる。 ※筆者の説明の仕方を文から読み取ろうとしている。（発言・ノート）
まとめ・創造・表現	5　まとめをする。 筆者は，使い方や歴史についての事例を入れることで，説得力のある文章を書いている。	○筆者の書き方の工夫は何でしたか。	○筆者の書き方の工夫を自分の言葉でまとめるようにする。
振り返り	6　本時の振り返りをする。	○リーフレットを書くときに，どんな工夫をしたいか書きましょう。 ・事例を入れて，説得力のある文章にしたい。 ・事例を入れて，より詳しく伝統工芸について説明したい。	○リーフレットを作るとき，事例を入れることで，読み手にわかりやすく伝えられることに気付かせる。

6　当日の板書

◎　成果物とその取組

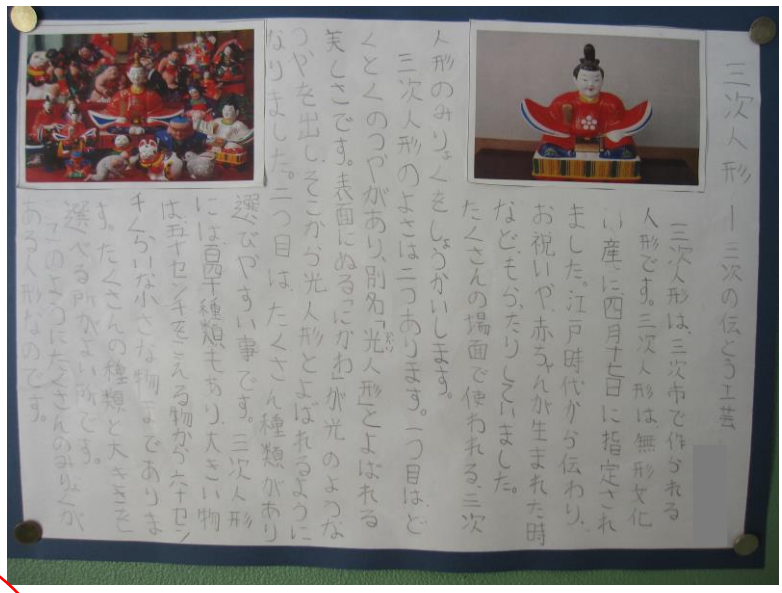
視点１①　他教科，総合的な学習の時間等との関連付け

〇社会科の学習との関連を図り，自分たちの住む都道府県の伝統工芸を紹介するリーフレットを作ることを単元のゴールに設定し，情報を取捨選択し，文章を書いていく。そして，６年生にリーフレットを発表することで，相手意識を高める。

視点１②　単元を貫く言語活動の設定

〇説明のしかたを捉えながら，取り上げる題材に関連する本を読み，文章を要約してリーフレットを書くようにする。

〇自分たちの住む都道府県の伝統芸能を紹介するリーフレット



〇６年生との交流

４年生，６年生双方が，国語科で学習したことを活かして作成したリーフレット，パンフレットをお互いに紹介し合いました。

三次市立神杉小学校　６年学級通信

M.L.G.

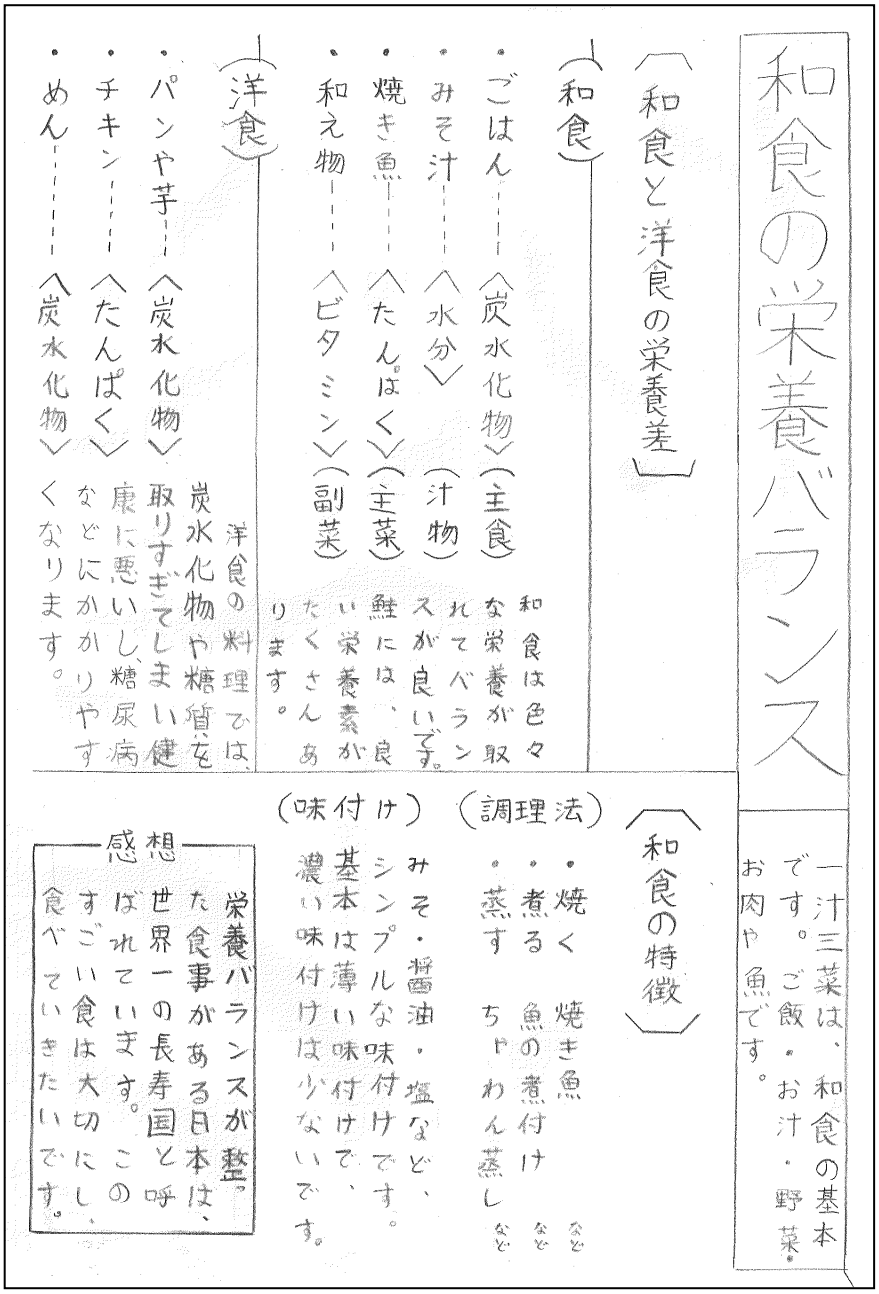
～一つになれる，一人になれる～

令和２年 11 月 10 日

日本文化を発信しよう～日本文化のよさを伝えよう～

国語科「『鳥獣戯画』を読む」で学習した筆者の表現の工夫（構成や絵，写真の見せ方）を用いて，日本文化のよさについて調べたことをパンフレットにまとめました。先週，地域の伝統文化について調べたことをリーフレットにまとめられていた４年生と交流会を行いました。

※パンフレットの一部



「和食のみりょく」

■パンフレットの構成

・和食の歴史
・和食と行事
・和食の栄養バランス
・まとめ